



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

女子大学におけるIT産業への進路事例

伊藤貴之

お茶の水女子大学 理学部情報科学科

<http://itolab.is.ocha.ac.jp/>

2021年2月15日

人工知能学会倫理委員会シンポジウム
「AI研究コミュニティのダイバーシティ&インクルージョン」

講演者の経歴



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

- 1992～2005 日本IBM東京基礎研究所

「女性が活躍する企業」
の1位常連

- 2005～ お茶の水女子大学理学部情報科学科

「女性リーダー育成」を
ミッションとする大学

- お茶の水女子大学 文理融合AI・データサイエンスセンター長
- 日本学術会議 理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会副委員長

- 人工知能学会誌
<特集>イノベーションとAI研究 (2015)
- 情報処理学会全国大会パネル企画
インターンシップについて本音を語る (2018)
- 人工知能学会誌
<特集>ダイバーシティとAI研究コミュニティ (2020)





「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言



- 大学全体
 - 3学部 (文教育学部／理学部／生活科学部), 1学年500人弱
 - 情報系以外の学生もIT業界に多数就職する
 - 情報系の全学選択科目の履修者が本記事に協力
- 理学部情報科学科
 - 1学年40人, 60～80%が修士に進学
 - 大半の学生がICT系の大企業に就職
 - 学科の全学年学生の有志が本記事に協力



「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言

情報系学科の志望動機



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University



- 以前の調査に比べて「就職状況」「社会貢献」といった社会的な理由をあげている人が増えた
- 米国の調査に比べて「両親・高校の勧め」「成功体験」が少ない

他に受験を検討した学術分野



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University



- 以前の調査に比べて「医・歯・薬学」「工学」が増えた
- 情報系のみに最初から絞っていた人は非常に少ない
- 「女子大学でのみ情報系／それ以外は非情報系も」という人が過半数
- それ以前に女子大学しか受験していない人が1/3を占める



「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言

学生時代のモチベーション向上体験



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University



- サークル・個人趣味・競技プログラミング・ハッカソンが増えている
- IT系の課外活動に熱心な学生と他の学生に二分されやすい
- 女子限定のインターンシップ・学内限定のサークルを初体験の場にしてステップアップする学生が多い

進路に影響を与えた機会



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University



- 教員・学会関係者・卒業生などの「個人の声」が
進路に影響を与える傾向が強い



「女子大学におけるIT産業への進路事例」

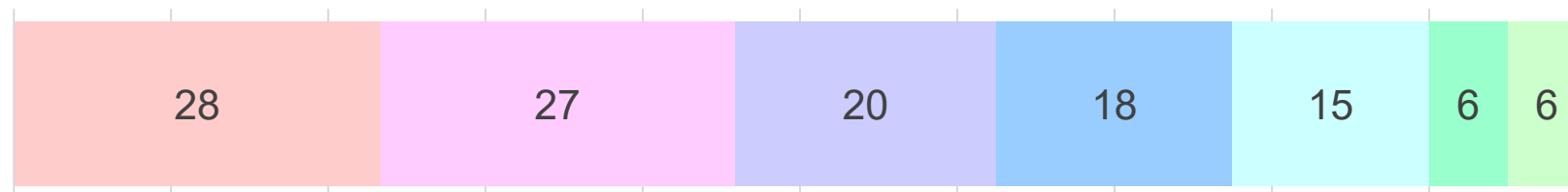
(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言

就職してから重視するようになった点



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University



- ライフワークバランス
- 職務への満足感
- 企業の技術力
- 業務の個人裁量
- 女性支援・ロールモデル
- 企業の地位
- 給与・インセンティブ

- 学生時代は「仕事の面白さ」「給与」を求める人が多い
- 就職後は「私生活」「満足感」「裁量」などを求める人が多い



「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々 (省略)
- AI研究コミュニティへの提言

ここまで紹介した調査結果の注意点



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

- 集計結果は全て「お茶大」での調査
他大学の女子学生にも同じ傾向があるか不明
(いつか調査したい)
- 同じ傾向があれば:
お茶大での調査結果には女子全般に該当する面がある
- 同じ傾向がなければ:
女子大学にいる人にしか知り得ない問題がある可能性

こんな記事を書きました



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言



- 高校生へのアプローチ
 - 他の学術分野に負けないように
- 総合学問としてのアピール
 - 情報学以外の分野にも興味を持つ学生は多数いる
- 就職活動・人事配属
 - 個人へのアプローチ, マッチング型配属など
- 非情報系学生へのアプローチ
 - 現状でのIT女性増加の最有力手段
- 女性コミュニティの継続的な構築



「女子大学におけるIT産業への進路事例」

(人工知能学会誌 2020年9月)

- お茶大での調査と議論
 - 情報科学科入学まで
 - 情報科学科在学中の日々
 - 卒業・就職後のキャリア
 - 非情報系学科からITを目指す人々
- AI研究コミュニティへの提言
- 雑感

進路選択基準の多様性を尊重する



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

- 必ずしも全ての人が「何をしたいか」「何が好きか」で進路を選んでいるわけではない
 - (お茶大の場合)「絶対東京」「絶対女子大」など
- 業界や学術分野の面白さのアピールも重要だけどそれ以外のアピールも人材確保のために重要
 - 例えばライフワークバランス
- 多様な進路選択基準の肯定が人材の多様性につながる

理工系は構造的に不利な点がある



Itoh Laboratory,
Ochanomizu University

- 他の分野と比べて「研究開発拠点に人を集める」傾向が強い
 - よって勤務地の選択が狭い
 - 女子のほうが進路選択でこれを憂慮する傾向があるらしい
- 少子化ゆえの地元指向がこの問題を加速させる
 - 将来は男子にもこの憂慮が広まるかもしれない
- 「女子が集まらなくても男子がたくさん集まっているからいいじゃないか」という意見は正しくないと思ったほうが業界の未来のためである